



# ゆずっこ

福島市立御山小学校  
学校だより NO. 8  
令和6年9月20日(金)  
発行者 校長 高澤 里美

9月5日(木) 6日(金)

6年生が会津地方に一泊二日の修学旅行に行ってきました。

## 1日目快晴

磐梯山噴火記念館

3Dワールドで噴火を体感



福島を自然を満喫

五色沼散策、松原湖遊覧、猪苗代湖でのひととき



おなかをすかせて

会津の食を堪能



会津の郷土料理も  
たくさんあったけど…  
気付いたかな



おなかいっぱいのまま会津日新館へ



「ならぬものはならぬ  
ぬものです」  
背筋を伸ばしてしっかり  
説明を聞く人を見つけました。  
内容が心まで届いていた  
ことでしょう。

## 2日目みんな元気

事前に立てた計画に沿って、グループでフィールドワークです。

出発だ



どんな  
赤べこが完成  
するかな



6年生とそんなに年が違わない  
白虎隊が主君への忠誠心から自ら  
命を絶つ悲劇…子どもたちは  
どう感じたのでしょうか

# 経験を生かす…とは

子どもたちからは、何かにつけて「この経験を生かして…」というフレーズが出てきます。「経験を生かす」とはどういうことをイメージしているのでしょうか。その言葉をどのように表現しようとしているのでしょうか。子ども一人一人に問いかけてみたいことの一つです。

この一泊二日の修学旅行で、子どもたちは家庭を離れ、ふるさと福島県において自然と歴史に触れる貴重な経験をたくさんしてきました。日程と内容は、「子どもたちに多くの学びを…」という担任の思いが感じられるものでした。その思いを受け止めて、一瞬一瞬を大切に過ごす子ども、ただただ楽しい時を過ごす子ども…。どう時間を過ごすかによって、一人一人の経験がそれぞれ違ったものになるということも学んでほしいなと思っています。

普段は、なかなか見知らぬ大人に対してあいさつをしたり、感謝の気持ちを伝えたりすることができなかった子どもが、バスの乗降の際に、「おねがいします」「ありがとうございます」と毎回、しっかりと言葉にして伝えていました。

おなかが満たされ、疲れと暑さなどでだらけた気持ちになりがちな時間帯に、熱心にメモをとりながら説明を聞いたり展示物に見入っていたりする子どもがいました。

夕食も、朝食も、出していただいた食事をできるだけ残さないように…。もちろん、誰一人無理強いすることなく、おいしくきれいに食べるグループがありました。

「〇時までに〇〇に行くには、〇時〇分のバスに乗らなきゃ…」内心は、一番焦っているだろう班長さんが、楽しそうに写真を撮り合うグループの仲間を待ってあげていました。

お風呂の脱衣所（女子）にあった、ドライヤーのコードをきれいに束ねてくれた子どもたちがいました。

自分たちの行動を振り返り、あらためるべき点を自覚することができた子どもたちがいました。

学校の顔である6年生一人一人が、今回の修学旅行で経験したこと、学んだこと、感じたことを具体的な言動で示してくれたなら、この御山小学校は、さらに、素敵な学校になるはず、との思いを強くした2日間でした。

よろしくね。6年生のみなさん  
(\*^。^\*)



## 子どもを守ること

私は、子どもが大好き、という理由で教師の道を選びました。出会った子ども一人一人の“今”と、今が積み重なって形づくられる“未来”が、その子にとって幸せであることを願って子どもと向き合っています。

学校というミニミニ社会には、いろいろな子どもや大人がいて、いろいろな出来事が日々起こります。波長の合う人、そうでない人。楽しいこと、つらいこと。得意なこと、苦手なこと。時には不条理なことさえ経験します。子どもによっては、心地よい時間や空間になり得ないこともあるのが学校だと思います。そんな時、そばにいる私たち大人が、子どもをどう守るのか、ということが大切だと思っています。今ある障壁を取り除くのか、乗り越えられるはしごをかけてあげるのか、別の道を一緒に探すのか、乗り越える術を得るまでじっと見守るのか…そこを見極めるのが難しい…。子どもは自分のいる場所しか見えていないことが多いですが、大人は、子どもが進む道の先を想像できます。だからこそ、子どもが前を向いて歩みを進めていけるように子どもを守ることが、そばにいる大人の責任でもあると思っています。

(高澤のひとりごと)